

平成30年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成30年11月21日(水) 開会 午後4時00分
閉会 午後4時45分
2. 会 場 根室市役所 2階 中会議室
3. 出席者等 根室市長 石垣雅敏
(根室市教育委員会) 教育長 寺脇文康
委員 天神正人
" 澤村武之
" 岩崎園子
" 石垣浩一
(事務局職員) 教育部長 園田達弥
教育総務課長 藤澤進司
社会教育課長 餅崎幸寛
社会体育課長 西田 悟
図書館長 森本崇起
総務主査 大沼公治
学校教育主査 大宮正人
(傍聴者) 2名

4. 付議事項

- (1) 根室市立小中学校適正配置計画(改訂版:素案)について
(2) 今後の教育施策について

5. 議 事

<藤澤教育総務課長>

ただいまから平成30年度総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

○ 石垣市長あいさつ

<石垣市長>

総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様、本日は大変お忙しい中、「総合教育会議」にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様ご承知のとおり、本日の総合教育会議につきましては、平成26年の地方教育行政法の改正に伴い設置されたものであり、この会議において市長と教育委員が一堂に会して教育行政について意見を交わすことで、両者が教育政策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で5回目の開催となりますが、私自身が市長として参加するのは今回が初めてであります。

私の市長就任にあたっての所信表明の中で、教育につきましては「教育予算の確保に努めるとともに、教育委員会と連携し、学校教育の充実を始め、市民一人ひとりの

社会的、職業的な自立に向けたキャリア教育の推進、また、生涯を通じて学び、活躍できる多様な機会を提供していく」ことを述べております。

また、「市街地の3中学校の適正配置に関する建設的な議論の加速」「市街地中学校の2校体制維持のための検討着手」、さらには「社会教育における若者の活動支援」を表明しており、本日は、これらについて検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に、教育委員の皆様におかれましては、活発なご意見をいただきますよう心よりお願い申し上げます、開会にあたってのあいさつといたします。

皆様、本日はよろしくお願い申し上げます。

<藤澤教育総務課長>

ありがとうございます。それでは会議に入りたいと思います。

会議の進行は、主宰者であります市長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(1) 根室市立小中学校適正配置計画（改訂版：素案）について

<石垣市長>

まず初めに議題の1番、根室市立小中学校適正配置計画改訂版の素案についてであります。

私は市街地地区中学校の適正配置計画にあたっては、「市街地3中学校の適正配置に関する議論の加速」と「市街地地区に2中学校を維持するための検討着手」を求めてきたところであります。

平成28年2月に策定された現在の適正配置計画については、これまでにPTAや校区の町内会の皆さまを対象にした説明会や、市議会での議論において様々なご意見をいただいております、その中ではとくに通学距離の長距離化による不安が多数を占めていると認識しております。教育委員会でも、これらのご意見を踏まえ、課題の解消に向けて検討を行っており、配置計画の改訂作業を進めておりますので、その内容と今後の方向性について事務局から説明をお願いします。

・教育総務課長から【資料1】により説明

<石垣市長>

今の説明について各委員よりお気づきの点があればご意見を申し上げます。

<天神委員>

3校体制から1校体制にした場合、啓雲校区は通学距離やバス路線が無いことが不安としてあり、送迎による保護者の負担増を気にする意見も耳にしました。

また、学校数が減ると人口減につながるため、痛し痒しな面もあります。花咲小学校は1学年1クラス規模になってきており、小規模化によって先生たちが減り、1人あたりの仕事の負担が増え、中学校では専門の教科担任を配置することが難しくなっています。

しかし、市長が2校化の維持を示され、教職員の加配も考慮しながら検討されるとお話をされていましたが、どのような見通しでしょうか。

<石垣市長>

先般、子どもたちが安心して充実した学校生活を送るために必要となる教員数はしっかりと確保できるよう市独自の加配も含めた市教委の考えについて説明を受けたところであります。

予算が絡む案件でありますので、現在、市の総合政策部、総務部と詰め協議を行っておりますが、公約でありますし、優先事項として考えておりますことから、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

＜園田教育部長＞

先に行いました政策会議において、この件については提案させていただいておりますが、その結果を受けて、明日から次年度の予算編成作業も始まりますので、今後の作業を進めていきたいと考えているところであります。

＜澤村委員＞

教員について、新聞報道などで教員不足が報じられておりますが、先生たちを集めるためにどのようなことをお考えでしょうか。

＜園田教育部長＞

先日、平成31年度の教員採用者の登録状況が発表され、小学校では1.5倍、中学校では3.3倍ということでしたが、一般的に3倍位にならないといい人材の確保が難しいと言われており、今までは2倍を切ることも無かったものが、ここに来て非常に人材不足が顕著になってきていると考えられます。

今後、代替教員などの人材確保が非常に難しい状況が考えられますが、教育委員会といたしましては、今話題になっております働き方改革や、教職員の住環境の改善に努めながら、いい先生に来ていただき、長く勤めていただけるような環境整備を進めてまいりたいと考えております。

＜澤村委員＞

近年、小中連携ということが言われており、小中一貫教育や義務教育学校の設置などが盛んに行われています。将来的には根室市においても小中連携をしっかりと進められるような取組を考えていただきたいと思います。

＜園田教育部長＞

中1ギャップという言葉がありますが、小学生のうちは先生たちの指導により落ち着いていたものが、中学生になって人間関係や授業の難易度が大きく変わり落ち着かない状況になったり、勉強に挫折感を感じ授業に集中できなくなったりするなどの問題が生じることがあります。そういう状況においては、小中の連携というのは根室市にとっても重要な要素と考えておりますので、市長も含めて今後も情報共有を行い教育環境の向上に努めていきたいと思っております。

＜石垣市長＞

改訂版の策定にあたって、今後のスケジュールはどのように考えているか。

＜園田教育部長＞

今回初めて改訂版の素案をお示ししましたが、今後、市議会の方でも説明を行う予定でおります。その際にいただいたご意見を反映し、改訂版の案として、前回の計画策定の際にも行ったように、PTAの皆様や校区の町内会の皆様に説明していききたいと考えております。今回は案という形で進めますので、説明会の中でいただくご意見があれば、それを反映させた上で年度末の完成を目標に作業を進めてまいります。

＜石垣市長＞

保護者や地域住民の皆さんの十分な理解を得られることが大切ですので、丁寧な説明に努めて欲しいと思っております。

今後においても、いただいたご意見、ご要望を踏まえながら、慎重に判断していかなければならないと考えており、教育委員会と連携して進めてまいります。

<天神委員>

今回の改訂版は5年間で計画期間となっていますが、いつから統合するのかを気にする声を聞きます。具体的な目標はありますか。

<園田教育部長>

今回の改訂版の中で中学校の2校化を平成33年度からと明記しており、これを目指して進めてまいります。

現在の計画を説明した際にいただいた意見として、通学距離に関する不安のほか、どのようなスケジュールで統合するのか、急すぎるのではないかという声がありましたので、今回は平成31年度、平成32年度の2年間で統合するための環境を作っていきたいということで事前に学校とも調整させていただきました。

<寺脇教育長>

平成33年4月というのは、柏陵中学校を根室西高等学校の校舎を活用することを意識したもので、平成31年3月に閉校した後に施設に手を入れるとなると、2年ぐらい時間が必要と考えたところでもあります。

<石垣市長>

この件について、他にご意見・ご質問などありましたらお願いします。

(特になし)

<石垣市長>

それでは、この素案により今後の説明会等を進めてもらうことでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

(2) 今後の教育施策について

<石垣市長>

次に議題の「(2) 今後の教育施策について」であります。

協議に入る前に、明日、「平成31年度予算編成会議」の開催を予定していることから、市の財政状況を踏まえた今後の施策展開について、少しお話しさせていただきます。

来年度の収支見通しは、多額の財源不足が見込まれるなど、現状のままでは近い将来「貯金が枯渇する」という大変厳しい状況に直面していることから、長期的な視点に立った「財政の健全化」と、計画的な「施策の展開」の両立を図っていくことが大変重要となっている現状であります。

私は、この度の所信表明における、政策目標の一つに「教育・文化の振興」を掲げております。

義務教育においては、学習指導要領の改訂を踏まえ、新しい時代に必要な資質・能力の育成につながる基礎学力の定着や教育指導力の向上、教育現場でのICT活用を後押ししてまいりたいと考えております。

また、社会教育においては、若い人たちが本当にやりたい、挑戦したいと思える活動を、側面から支えたいと考えるところであります。

当市、財政の収支見通しとのバランスに配慮しながら、これらの政策をより効果的

に展開していく必要があります。

本日は、これらの中から「社会教育分野における若者への活動支援について」を一つの協議事項にしたいと思えます。

はじめに、社会教育課で取りまとめました資料により、近年の取り組み状況等についての説明をお願いします。

・社会教育課長から「社会教育分野における青少年を対象とした事業実績について」【資料2の1ページ】により説明

<石垣市長>

ただいまの説明を受けまして、ご意見等ありましたらお願いします。

<寺脇教育長>

ただいま報告がありましたように、今は若者たちを集めることが大変な時代となっております。要因としてはSNSの普及も影響していると思えますが、なかなか面と向かってという交流が少なくなってきたり、これは社会教育で若者向けの様々な講座を実施してもなかなか人が集まらないということにも現れています。

しかし、SNSを通じて災害支援の仲間を募るなどの活用もされているので、今後は新しい集まり方、支援の仕方を考えていかなければならないと考えております。

<天神委員>

若い人は定期的な例会などの煩わしさから、団体に入るのを敬遠する傾向があり、一人で自由にやりたいと感じる人が多くなっていると思えます。今の50代、60代はよく青少年ホームを利用して仮装盆踊りに参加してみたり、バレーボールチームを作ってみたりして、専用の活動場所が欲しいという要望もありましたが、そういったサークルが無くなってくると若い世代が続かず、個人で楽しみを見つけるようになってきたのだと思えます。

<澤村委員>

出会いの場としてなど、若者が集える場所やきっかけづくりが必要だと思えます。

<石垣市長>

私も若者の交流の場は大事であると考えており、思いつくところでは、「ハイワット・ホール」を若い方々が中心となって改装・オープンさせましたが、こうした若者自らが本当にやりたいということを側面から支援できればと考えるところであり、そういう声をしっかりと吸い上げることが重要だと思っています。今後も若者のニーズを捉えていくためにも、皆様と情報共有していきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

<石垣市長>

続きまして、先に行われた10月定例会月議会においては、私の所信表明を受け、生涯学習の充実や文化・スポーツの振興、さらには社会教育活動に対する基本姿勢などについての質問があり、私からは、市民皆さんの学習に対する多様な需要を踏まえ、必要な学習機会の提供や奨励に努める重要性について認識している旨を答弁したところであります。

また、今月の6日に開催した「政策会議」では、これまでの市民要望や議会議論を踏まえ、教育委員会より12件に及ぶ案件の提出があり、その説明を受けたところであります。

この中から、特に市民の関心が高いと考えられる案件の現状や今後の方向性について、担当課から順次説明をさせた上で、ご意見をいただきたいと思ひます。

- ・教育総務課長から「教職員住宅環境整備事業」 【資料2の2ページ】により説明
- ・社会教育課長から「文化財保存活用事業」 【資料2の3ページ】により説明
- ・社会体育課長から「総合体育館整備事業」 【資料2の4ページ】により説明

<石垣市長>

ただいまの説明を受けまして、ご意見等ありましたらお願いします。

<天神委員>

教職員住宅環境整備事業について、他町と比べると根室市の住宅が良くないという話は伺ひます。シャワー設置など手を入れています、建物自体が古いため、割高でも環境のいい民間住宅を選択される方もいると聞いています。住環境が良くない根室市を敬遠される先生もいるのではないかと思ひます。

<石垣市長>

今後についても、今回のような会議や意識調査などで得た市民の皆様からの意見に耳を傾けながら、子どもたちの学びの充実や成長のため、また、併せて市民の学びの充実のために様々な施策が活かされるよう、取り組んでいかなければならないと思ひておひります。

他にご意見はありませんか。

(特になし)

(3) その他

<石垣市長>

それでは、その他について、事務局からなにかありますか。

<園田教育部長>

特にありません。

○閉 会

<石垣市長>

それでは、本日本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日本日いただきましたご意見も踏まえながら今後の教育施策を進めてまいりたいと思ひておひります。本日本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

午後4時45分閉会